

平成22年度第1回「スポーツクラブ21ひょうご」芦屋市推進委員会要旨

日 時	平成23年1月13日(木) 15:00~16:30
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター3F第1研修室
出席者	委員長 西田 俊一 副委員長 古津 純子 委員 多田 洋子, 横山 奈千代, 井原 一久, 岡 みゆき (欠席: 立花 暁夫, 春名 片史) 事務局 橋本 達広社会教育部長, 木高 守スポーツ・青少年課長, スポーツ・青少年課員4名
会議の公表	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 </p> <p style="text-align: center;"> < 非公開・部分公開とした場合の理由 > </p>
傍聴者数	0人

- 1 開 会
- 2 橋本部長挨拶
- 3 委嘱状授与 橋本部長より, 委員6名(2名欠席)に任命書授与
- 4 議 事
 - ・ 委員6名の出席により, 推進委員会要綱第6条第2項の規定により, 推進委員会成立
 - ・ 情報公開条例第19条(保有個人情報の開示義務)の規定により, 議事録公開を確認
- 5 委員長, 副委員長選出
委員長に西田俊一氏, 副委員長に古津純子氏を選出。(「スポーツクラブ21ひょうご」芦屋市推進委員会設置要綱(以下推进会要綱とする)第5条に基づく)
- 6 新委員長・新副委員長挨拶, 委員自己紹介。(事務局より欠席委員2名の紹介)
- 7 議題1 各スポーツクラブの平成21年度事業・決算報告及び平成22年度事業計画・予算について(報告)

委員長 スポーツクラブの平成21年度事業・決算報告及び平成22年度事業計画・予算について報告を, 多田委員よりお願いします。

多田委員 資料1に基づき, 平成21年度事業・決算報告をスポーツクラブ21打出浜を中心に説明します。補足を事務局からお願いします。
資料1を説明(内容省略)

事務局 資料1は, 県へ提出した書類と同じものです。基金から支出できない保険料・食糧費等は自主財源で賄われている。各スポーツクラブ21は, 計画書のとおり事業が行われています。

委員長 ご質問・ご意見等がありましたらお願いします。

井原委員 スポーツクラブ21宮川は、基金の残額が無いのですが、どのような形で運営されているのですか。

多田委員 宮川は、基金残額が無くなった時点で、会費を徴収して自主財源で運営されています。

委員長 他に何かご質問はありますか。ありましたら、その他のところでお願ひします。引き続き平成22年度予算・事業計画について説明をお願いします。

多田委員 資料2に基づき、スポーツクラブ21打出浜を中心に説明させていただきます。

資料1を説明（内容省略）

事務局 事務局で、全スポーツクラブ21の基金の通帳を預かり、毎年、各クラブの事業計画・予算書に則って基金からの出金額の申請書を事務局へ提出、その額を各クラブの通帳に振込み、余剰金は年度末に基金通帳へ戻すという形で決算をしています。

スポーツクラブが始まって10年経つので、当初購入したコピー機・パソコン等備品の買い替えの時期になっているが、買い替えの費用をどう捻出するかが各クラブで課題になっております。

また、多田委員より報告のありました、予算・決算、事業報告・計画については、「スポーツクラブ21ひょうご」（資料3）のクラブ育成チェック表に、平成20年度から、毎年各クラブで13項目にわたって自己評価をされている。課題になっているのは、ネットワーク化、住民の意識、広域化・波及効果、社会公益性です。

受益者負担については、クラブによっては難しい場合がある。資料3は、3年間の表となっているので個々のクラブの変遷を見比べてください。

現時点で運営上考えていること、問題点である、ホームページの立ち上げ、役員のなり手が無い、場所・時間の関係で種目クラブ数を増やせない等については、芦屋市スポーツクラブ21連絡協議会で話し合っ解決していく必要があります。

多田委員 やはり事務局が言われた項目については悩んでいる状態です。多種目・多世代を目指し各クラブで工夫をしているが、特に子どもの減少ということについては他のクラブとの連携が必要だと考えています。

委員長 只今の、22年度の予算・事業計画について何かご質問はありませんか。

私から質問ですが、各クラブへの県の基金はいくらですか。

事務局 一律1,300万円です。

委員長 スポーツクラブ21設立時に中・長期にわたってどのように基金を使っていくかを計画しておかなくてはならないのではないですか。基金とか補助金というのは、それを使うことによって活性化し、基金・補助金が無くなっても同じような活動が出来るようにとするとところに意味があると思います。県からのものですから当然税金です。地域のためになれば良いということだと思っんですけど、だから基金がなくなっても、ある時と同じような体制を作ろうというのが、当初のスポーツクラブ21を作るとき目標だったと思うのです。

すでに何年か経っていますが、今から体制を改善していかなければ基金がまったく無駄になり、税金の無駄遣いと言われます。

井原委員 収益事業や研修といった事業計画を立てられる、マネージメントをする方が各クラブに居られますか。

報告を聞いていると、基金頼りというところがあるようで、そこからの脱却をどうするかが大事だと思うんです。

多田委員 マネージメントが出来るような人材がない、収益事業と言えるかどうか判らないけれど、基金が無くなったときのことを考えて、イベントを行うときに参加費を集めるようになったが、今だ会員の中には、やってもらって当たり前、なぜ参加費を取るのかと言った苦情も出てくる。

そのような時は、基金で買ったコピー機のような設備が故障したときにどうするのかというようなことを説明し、参加費を払うことを納得してもらっている。

井原委員 芦屋市や明石市は、コミュニティ・スクールが機能していたので、それがバックボーンになって、スポーツクラブ21活動がうまくいっているほうではないかなと思うんです。でも今後のことを考えると、各スポーツクラブ21はどのようなサポートを求めているのかを調査し、どのような具体的なサポートが必要かの案を出していったほうが良いと思います。

多田委員 それは難しいと思います。

各クラブはそれぞれ地域の特徴を生かし、会費を集めて自主運営をされてるわけですから、連絡協議会としては、各クラブをまとめて、地域指導であったり、交流事業を進めていきたい。

井原委員 サポートをどのようにしていったらいいかといったイメージはありませんか。

多田委員 指導者のための講習会や研修会等いろいろな講習会や研修会の案内を頂くのでスポーツクラブの指導者等に紹介しますが、指導者は、仕事を持っている人が大半で、土曜・日曜日がスポーツの活動日なので、なかなか講習会・研修会に参加できない。もう少し時間があれば行く人も出てくるのかなあとと思います。

委員長 各スポーツクラブ21をまとめていくのは難しいと思うんです。

各種目クラブが自主運営していて、それらがスポーツクラブ21に登録し、連合体となっている。

コミスク時代には各種目クラブは自主運営で成り立っていたのに、スポーツクラブ21に登録するとスポーツクラブ21に会費を払うが、各種目クラブへの基金のメリットが無いと思っている。基金はスポーツクラブ21全体事業には使用されているが、各種目グループの活動への基金使用額が少ないので、会費の徴収については難しいと思います。

井原委員 もっと現場のいろいろな立場からの意見がほしいです。

多田委員 やっと参加費をもらうところまで来た段階で、その先へ進むのがまだまだ難しいです。

委員長 基金がそろそろ無くなっていく中で、これからスポーツクラブ21の真価を問われると思います。他に何かご意見はありませんか。ないようですので次に行き

ます。

8 議題2 平成21年度末基金額について

委員長 議題2の平成21年度末基金額について、事務局より説明をお願いします。

事務局 資料4・4-2に基づき説明（内容省略）

委員長 事務局の報告について何かご質問はございませんか。ないようでしたら次に行きたいと思います。

9 議題3 スポーツクラブ21ひょうご芦屋市・阪神南・兵庫県の連絡協議会の活動について

委員長 議題3のスポーツクラブ21ひょうご芦屋市・阪神南・兵庫県の連絡協議会の活動について、多田委員より報告をお願いします。

多田委員 資料5に基づき説明（内容省略）

委員長 只今の報告に対して何かご質問はございませんか。

事務局 質問ではないですが、全県協議会が主催される、多くの研修会・スポーツ大会がありますが、場所が遠くであったり、内容があまり芦屋にそぐわなかったりしますが、参加すべきものには参加するようにしています。22年度はリスクマネジメントの研修会に芦屋市連絡協議会役員の方と参加しましたが、傷害保険の掛け方と事業・計画の立て方の講習会がありました。大変参考になりました。

多田委員 スポーツは基本的に自己責任ですが、事業をする上での安全管理の大切さを学んできました。

事務局 事業の立てかた、指導案の作り方を学べるような研修会を連絡協議会でできたら良いと思います。

委員長 この件に対して何かご質問はありますか。

井原委員 連絡協議会でこの推進委員会へ議題として提案してもらえば、ここでいろいろな事を決定できる期間になると思います。

会場が足りない、指導者の不足がありますが、近隣の大学等にご協力いただき、勉強するという方法もあり、推進委員会が前向きな議論する場としてもっと動けばいいと思いますので、連絡協議会から推進委員会へ、テーマとか悩みを提案していただければ良いと思います。

多田委員 連絡協議会で提案していきたいし、すぐには出来ないかも知れないが、徐々に少しずつ改善するところはしていきたい。皆さんの力も借りたいと思います。

10 議題4

委員長 いろいろご質問があると思いますが、議題4のその他で今までの中でのご意見・ご質問、これ以外のことでもご意見があればお願いします。

委員長 推進委員の中にはスポーツクラブ21に係わっている方、関わっていない方がおられますが、皆さん何かスポーツには係わっておられますので、係わっているから見えない点があると思いますし、反対に外から見てわかる事もあると思いますので、外から見てのご意見があればお願いします。

岡委員 先ほどから、基金と会費のことが出ていましたが、スポーツをされている方が会費を払う価値があると思えば払われると思いますので、そこまで持ってい

けなくて、今まで無料であったのに何で払わなければならないの、というところをどのように会費を取れるのかを考えていたのですが。

委員 長 非常に難しい。

橋本部長 会費で賄えるのはどの事業なのか、スポーツクラブ21宮川は基金0ですから、これが将来のモデル、宮川は苦心して事業をされていると思いますので、各クラブの参考になるのかと思います。

基金の1,300万円は県としてはスポーツクラブ21の5年間ぐらいの立ち上げ費用として見ていて、その後の運営は自主的にやってくださいということだと思います。一旦立ち上げると、基金が0になったから止めるということにはならないので、基金がある間に、自分たちで自主財源を確保するか、会計的な工夫をどのようにするか、収益を上げる方法を考えなければならない。今後の県からの助成をあてにすることは出来ない。

岡 委員 スポーツ指導者だけではなく、一般の人も参加できる、スポーツの有名人の講演会などで得た収益を各スポーツクラブ21の財源にすることは出来ますか。

橋本部長 講演会の収益は地域のスポーツ振興に使用しますとしておけば、出来ると思います。

委員 長 そのような講演会で得るものは収入ではなく、体験や経験に接する場であって、お金を受益者負担で払うという認識とは違うと思います。従来スポーツは学校スポーツで始まっているので無料という形で親の世代は育っているが、少し若い世代は違うと思います。スポーツクラブ21はお金儲けではなく、みんなでお金を払って運営すると形を浸透させることが、スポーツクラブ21の役目だと思います。指導者も資格のある人に一貫指導してもらおうことが出来るのが理想で、その原点に戻らない今の芦屋は他の地域より組織としてはまとまっているが、理想は変えないで出来ているところと出来ていないところがあるので、これからどうすればいいかを考えなければいけない。上手く・強くなりたい人は、それを目標としたところへお金を払って行っているが、スポーツクラブ21は、地域でスポーツが出来るという環境を作ることに使命としてあると思う。大変だと思うがそういう形でもし基金がなくなっても、そのような形でやっていけるようにしなければならぬ。各スポーツクラブ21は各種目スポーツクラブの連合体なので難しいと思いますが、市内の各スポーツ団体等と、縦・横の繋がりをうまくやっていけるようにしなければ、運営は長く・良いものになっていかない。

井原委員 スポーツクラブ21の種目クラブに、体育協会から指導者を派遣することは難しいですか。

委員 長 実際にそれは始めています。

井原委員 それは、個別にやっているのか、それともNPO法人の体育協会が主体となっておやりになっているのか。

委員 長 要請があれば種目クラブに体育協会から指導者を派遣するように今年から始めている。種目でいえば空手・少林寺拳法など、メジャーなスポーツほど指導者が居るので自分たちでまかなっておられる。

多田委員 スポーツクラブ21は、地域の人に体を動かしなさいよというところから、なるべく費用が安く、大人と子どもが一緒になって活動していくことが大切だと思う。上手になりたい・強くなりたい人は別にお金を払ってそれを目指すところへお行きになればいい、それはそれでいいのではないかと思います。

委員長 スポーツをやっていると、上手になりたいと思うのが自然な姿だと思う。向上心は必要です。それがなければスポーツではないと思う。種目クラブは、スポーツクラブ21のクラブチームだが、スポーツクラブ21ではないクラブと同じように、上手になりたい・強くなりたいと思って活動している。そこを否定されるとスポーツクラブ21の種目クラブ成り立たない。スポーツクラブ21の原点に立ちかえて、すぐ出来るとは思わないが、そこを目標の一つとして一歩ずつやっていくのが大切だと思います。

井原委員 先ほどの話しへ戻りますが、この委員会で支援することが出来ないかと考えます。私自身も子どもが地元でサッカーをしていて、指導者としてスポーツクラブ21に係わってきたのでよくわかります。親が子どものクラブを見て、手伝えることは大切で意義があると思います。強くないかも知れないけれど、強くなくても子どもと一緒に成長を実感し、分かち合えるというのは有意義で、それもスポーツとしての活動で、あり方だと思います。そういうあり方を県として考えて小学校区にスポーツクラブ21に作ったのではないかと、芦屋市もそれを追隨していると思う。そういう中で、もっと連動して困っているところにサポートとして指導者等を派遣して手伝えないかと考えます。

多田委員 上手く・強くを目指すクラブと対立するつもりはないし、行く人を止める必要もない。そういうところへは行けない、でもやりたいという人をスポーツクラブ21で受け止めて、地域の指導者が教えていければと思います。それぞれ親と子が望むところでやれば良いと考えます。そういう中で皆さんの力を借ることが出来れば借りていけるようにしていきたい。

委員長 他に何かご意見・ご質問はありませんか。

先ほどの話しに付け加えると、上手になりたい・強くなりた人も、楽しみたい人も地域のスポーツクラブ21で受け止めることが出来るようにならないといけないと思います。それが地域だけでは出来ないならば、そこをサポートしていけるように、そのために本来の目的は何か目指すところを決めて、スポーツクラブ21として共通理解し全体としてステップアップしなければならないということです。

井原委員 各スポーツクラブ21は、指導者を必要としていとお聞きしています。推進委員会で具体的な案を出して積極的にやっていくようにすればよいと思う、また、岡委員が提案された講演会などもして財源を確保し、受益者負担を理解してもらおうようにしていけばよいという気がします。次回にはもっと有意義な話が出来ればと考えています。

事務局 次回の連絡協議会に多田委員から報告していただいて、話し合いをさせていただきたいと思います。

橋本部長 スポーツクラブ21ひょうごの原点・目標の7点を紹介（内容省略）

委員長 芦屋は組織とし上手くいっていて、今部長が言われたような環境整備を出来る優位性はあると思うので、それを上手く利用して発展できたらと思う。

資料3の一貫指導の件ですが、スポーツクラブ21では小・中・高と一貫指導できるが、学校体育では進学すれば環境が変わり指導者も変わって以前学んだことが否定されるということがあり、一貫指導はむずかしい。それが社会体育と学校体育の違うところで、スポーツクラブでは同じ考えのもとで指導者が変わっても出来るというのは非常に大切なところだと思う。質の高い一貫指導がスポーツクラブ21に私は期待したいし、小・中の義務教育の部分が出来ているなら評価していいと思う。

事務局 全国で総合型地域スポーツクラブが生まれていますが、その占める範囲の理想は、芦屋全体で一つぐらいのレベルで、小さくても中学校区ぐらい、円を描くと2km・3kmの範囲になる。しかし、兵庫県の場合は小学校区を設定していて、芦屋市内でいうと何百mもない、東西2.3kmの中に8校あり、地域コミュニティという点では芦屋は進んでいると思いますが、いわゆる総合型地域スポーツクラブを育成するには狭いと考えます。その中で一貫指導は大変難しい、中学校区だと、小・中・高そして大人としてそのまま生活されれば一貫指導はスムーズに行くが、県が小学校区で設定されました。日本の場合の地域コミュニティは小学校区で生まれる場合が多く、総合型地域スポーツクラブの面では難しい地域設定かも知れません。だから、小学生が中学校へ進学してスポーツを続けているときに、スポーツクラブと中学校のクラブが連携しているか、それぞれの指導者が同じ意見やビジョンを持っているかが大切だと思う。そういう意味では県の方式ではスポーツクラブ21での一貫指導は難しい。でも子どもは地域の宝なので育てなければならない。スポーツクラブと中学校や地元の高校の指導者と連携して子どもをどのように育てていくかが大切なことだと思われまます。しかし、これは現実として大変難しいですが、これをやっていくことがベターなやり方ですが、必要なことと思います。

委員長 一貫指導という概念が皆で共通理解していなくて、芦屋としてスポーツクラブ21で一貫指導が出来たらいいが、絶対今のままでは無理だと思う。ではどうするか、地元の中学校の各クラブの指導者と連携していくことをテーマにすることが必要だと思う。今立っている位置を理解しないと前にいけない。闇雲にやっても一時しのぎとなるだけで本来の指導にならない。

多田委員 カヌーでいえば、市内中学校にはクラブがないが県立芦屋高校とは連携が出来ていて、中には高校卒業後にスポーツクラブに戻ってきてくれる場合はある。

委員長 横山委員はどうですか。

横山委員 もう10年ほど経っているので、自主運営していけるような形になっているのだという思いで今日は出席しましたが、話を聞いたり、資料を見てみると各スポーツクラブ21で格差があると感じた。地域によってスポーツクラブ21に対する思いに差があるのではないかと思う。初心に帰ってやってみることが必要ではないかと考えます。

委員長 10年前と今とでは問題点は変わってくる、やることによって問題点が見え

てくることはいいことだと思います。

クラブ側から見るのではなく選手側から見るべきで、やりたい子どもがやれる環境を地域で作ることが大切だと思う。カヌーでいえば芦屋が兵庫県の中で一番いい設備整っているの、県立芦屋高校に行かなくても、その年代の子どもが出来るようなクラブがあればいいのではないかと、それをスポーツクラブ21で作る必要があるのではと思います。いろいろな年代でスポーツが出来る環境をどのように作るかを考え、実行する中心になるのが芦屋の場合スポーツクラブ21だと思うので、原点に戻ってやるべきだと考えます。

横山委員 芦屋の場合はコミスクがあるので、スポーツの面でも地域のコミュニケーションをとることをクリアしやすい部分で、皆さんの意見を聞いていると質の高いものを求めていると感じました。

委員長 組織としてはしっかりしたものがあるので、後は中身を積み上げていくことが必要で、そのためにこの委員会で一ずつ答えを出して実践していけたらいいと思います。

事務局 カヌーで言うと、地域で初めてカヌーというスポーツに出会って、中学にはクラブはないが、中学生の地域カヌークラブがあってそこで育って、高校でインターハイに出て、国体に出てまた地域に戻ってきて子どもを指導するということが出来るのが、スポーツクラブ21の成果だと思う。このような点でいうとカヌーが一番期待したいところです。指導者の養成など厳しい面があると思うが、是非とも息切れしないように育ててもらいたい。また行政も支援していく必要があると思います。

委員長他に何かありませんか。

橋本部長 地域のスポーツクラブ21で出来ない場合は、他のスポーツクラブ21も参画して芦屋が結集していけばいいと思う。

委員長 5年・10年経つと少子化・高齢化がもっと進むので、小学校区単位で特に団体スポーツは出来なくなると思うので、連絡協議会で話し合っ人や施設の面で連携していけるようにしてほしい。

古津委員 カヌーに期待が大きいですが、芦屋は施設・指導者の面で恵まれているので協会としてもしっかりやっていきたいと思ひます

委員長他に何かご意見はありませんか。なければこれで終わりたいと思ひます。

木高課長 閉会の挨拶（内容省略）